2018 年 11 月
住宅金融支援機構
国際・調査部

【概要】
2018 年度　民間住宅ローン利用者の実態調査
【民間住宅ローン利用者編】(第1回)

Ⅰ　調査の概要

2018 年4月～2018 年9月※に民間住宅ローン(フラット35を含む。)の借入れをされた方を対象とし、利用した住宅ローンの金利タイプや住宅ローン選びに関する事項について、インターネットによるアンケート調査を実施し、その結果を取りまとめたものです。
(参考)調査時期 2018 年 10 月3日～10 月 11 日、回答数:1,500 件

Ⅱ　調査結果の主なポイント

※< >は、本調査結果の詳細資料中の該当ページ

１　「変動型」の利用割合が引き続き６割近くと多く、「固定期間選択型」が減少、「全期間固定型」が増加 <p. 2>

・「変動型」57.0%(前回調査 56.5%)
・「固定期間選択型」25.3%(同 30.1%)
・「全期間固定型」17.7%(同 13.3%)

２　今後１年間の住宅ローン金利見通しは、全体では「ほとんど変わらない」が減少、「現状よりも上昇する」が増加 <p. 11>

・全体では、「ほとんど変わらない」が 49.2%(前回調査 59.0%)に減少、「現状よりも上昇する」が 41.7%(同 29.1%)に増加
・「全期間固定型」では、「現状よりも上昇する」が半数以上の 55.6%(同 55.0%)

３　住宅ローンを選んだ理由は、フラット３５以外では「金利が低い」が、フラット３５では「返済額を確定しておきたかった」が最多

<p. 15、p. 16>

・住宅ローンを選んだ理由は、フラット35以外の利用者では「金利が低い」が 76.2%と、フラット35利用者では「返済額を確定しておきたかった」が 60.8%と、最も多い

本調査結果の詳細は、住宅金融支援機構ホームページ(https://www.jhf.go.jp/about/research/loan_user.html)に掲載

※Ⅰ調査の概要に記載している調査対象について 2018 年4月～2018 年 10 月としておりましたが、正しくは 2018 年4月～2018 年9月なので訂正しております。